

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 6 月 22 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	榊原 香鈴美

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
日本東京都御蔵島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
野生イルカの水中遊泳者に対する視覚探索行動の機能の解明
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 27 年 5 月 29 日 ~ 平成 27 年 6 月 16 日 (19 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
東京都御蔵島観光協会
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<概要> 今回の調査では、東京都御蔵島周辺海域に生息する野生ミナミハンドウイルカの水中遊泳者に対する視覚探索行動の観察を行った。本種を対象にしている商業ウォッチング船に便乗し、水中でイルカの行動を撮影し記録した。1 出航 2 時間で水中撮影記録時間は 20 分程である。本滞在中は 12 回出航し計約 240 分の直接観察がおこなうことができた。今後は、このデータと個体識別情報をもとに、個体の性・成長段階・血縁関係とこの行動との関係を分析する。また、野生イルカの水中遊泳者に対する視覚探索行動が、霊長類や他の動物の個体間関係を反映する行動と同様に、複雑なイルカの社会構造を解明する行動指標となるか検討する。今後は、12 月の国際海棲哺乳類学会で研究成果を報告することを目標に、分析と発表準備を進める予定である。 また、島での滞在中には、本調査以外に、御蔵島個体群を対象に野生イルカの夜間の音声分析を行なっている WRC の辻さんの調査にも共同研究者として協力し、音響データの収集を行った。
<内容> 調査方法と調査努力量 御蔵島周辺で野生イルカの水中ウォッチング業を営む船長さんに個人的にお願いし、お客さんのいる船に便乗させていただいた。港を出航し、島周辺を一周するようにイルカを探索した。イルカ発見後、海況の様子により入水可能であれば入水し、水中カメラでビデオ撮影を行った。観察者(水中遊泳者)に対して、野生イルカがどのように接近し視覚探索をおこなうかを連続的に観察するために、2 台のビデオカメラを使用して前後方向の同時記録をおこなった。可能である場合は、視覚探索をおこなう個体の周囲の個体も撮影し、どのような集団構成で視覚探索が起きるか記録した。
観察結果 12 回の出航で計 24 時間調査をおこない、計約 240 分の映像を撮影した。視覚探索行動に関しては、現在分析中である。昨年度までと比較すると、今年度は一度の遭遇頭数は多いが個体間距離が広く、個体がばらばらと様々な方向に向かって泳いでいるような状況に遭遇することが多い印象を受けた。さらに、今まで多くは観察されていなかったジャンプもみられるようになった(写真 1)。昨年 of 個体識別調査終了から、7 頭の新生児が生まれていた。老齢のメス個体によるベビーシッティングのような行動も観察できた(写真 2)。
出張成果 御蔵島観光協会と御蔵島村役場で研究計画を受け入れていただき、今年度も観察をおこなえる手はずを整え、実際に観察をおこなった。また、夜間の音声分析を行なっている WRC の辻さんの調査にも共同研究者として協力し、音響データの収集を行ったほか、東京都の海況モニタリング事業の一環であるイルカの個体識別調査に参加するボランティア学生のサポートもおこなった。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真 1. 船上より撮影したイルカのジャンプ



写真 2. 老齢個体と新生児のペアでの遊泳（撮影：柳瀬美緒）

6. その他（特記事項など）

滞在場所を提供していただいている民宿鉄砲場の栗本道雄さんをはじめ、ウォッチング船に快く乗船させていただいている御蔵島の船頭みなさまに心より感謝いたします。